

MAXQDA によるキーワード検索と 自動コーディング

MAXQDA では、指定した文字列を検索する〔語彙検索〕機能を使い、検索結果をまとめてコーディングできます。

語彙検索

まず、検索文字列（キーワード）を指定し検索します。

1. メニュー〔分析〕→〔語彙検索〕（またはドロップダウン→〔語彙検索〕）
2. 検索文字列を入力
3. 検索対象を指定

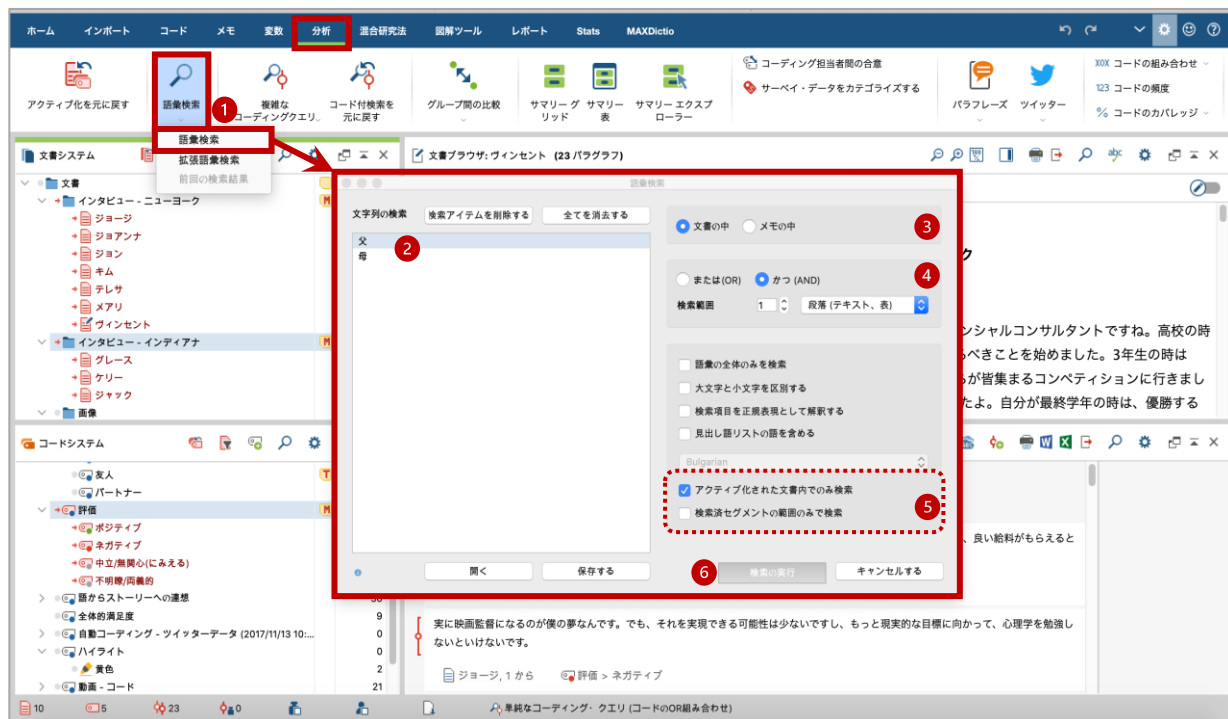
※メモを対象にした場合、自動コーディングは実行できません

4. 複数の検索文字列を AND で指定する場合の範囲指定
5. オプションの指定

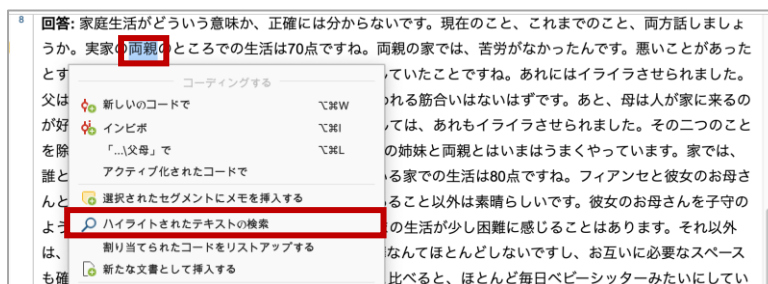
検索の範囲を限定する: アクティブ化した文書、検索済セグメントに限定できる

※その他オプションについては後述

6. 検索の実行



文書ブラウザ内で検索したい文字列を選択→右クリック [ハイライトされたテキスト



トの検索] でも [語彙検索] を使用できます。

検索結果

検索結果はテーブルで表示されツールバーから以下の機能が使えます。

1. 表示領域の選択
2. 検索: 検索結果からさらに絞り込む
3. ヒット数を文書変数に保存
4. 検索ヒット数の詳細な一覧 (AND 条件の場合)
5. 検索ヒットを含む文書のアクティブ化

6. リフレッシュ: 検索条件設定画面に戻る
7. エクスポート
8. 項目名クリックで並べ替え

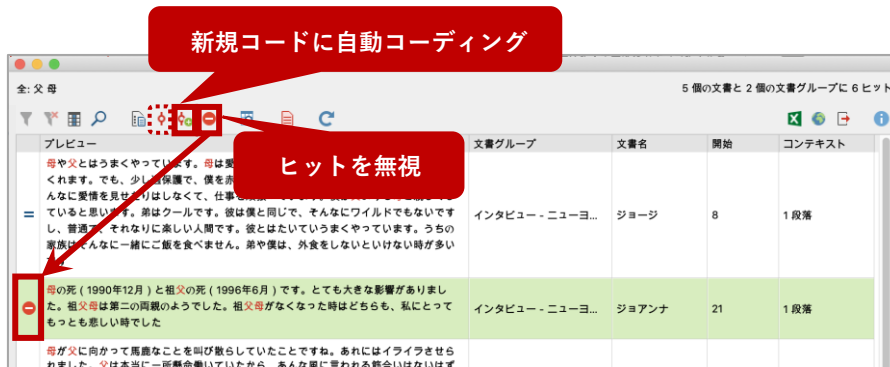


検索条件の保存と再実行

- 検索条件を保存し、繰り返し使用したい場合:
検索条件画面 [保存] → 「ファイル名.sea」ファイルが作成される
再利用時は検索条件画面 [開く] → ファイルを選択
- 直前の検索条件で再実行したい場合:
メニュー - 分析 → 語彙検索のドロップダウン → [前回の検索結果]

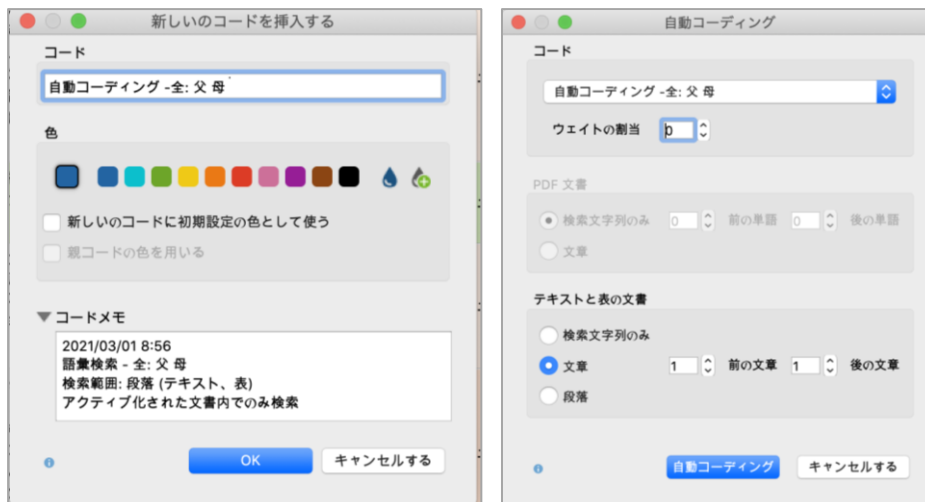
検索結果の自動コーディング

検索結果に含まれるセグメントを自動的にコーディングするにあたり、含めたくないセグメントがあった場合は [ヒットを無視] できます。

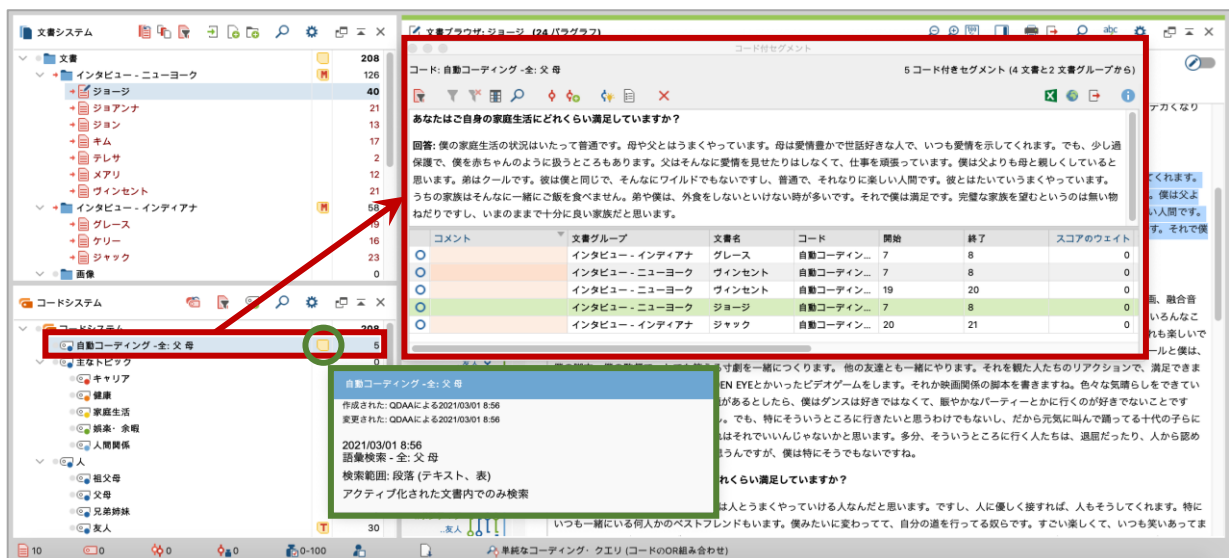


検索結果から新規コードにコーディング（既存コードにもコーディング可能）。コード名、コードメモが自動的に生成されます。必要に応じて編集し [OK]。

必要に応じ、ここでウエイトの割り当てもできます。検索文字列を中心にどの範囲にコードを割り当てるかを指定し [自動コーディング]。

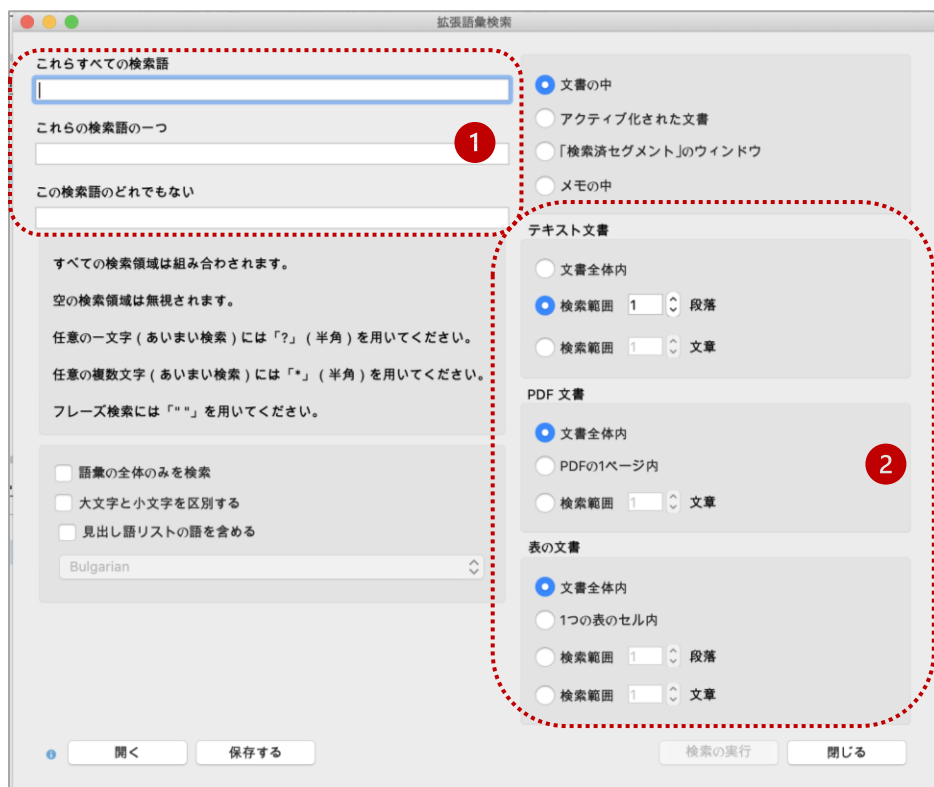


自動コーディングによりコードが作成され、他のコードと同様に操作できます。



拡張語彙検索

通常の語彙検索に加え、検索文字列を組み合わせることができます (1)。さらに、その組み合わせを検索する範囲を文書のタイプごとに指定できます (2)。



検索オプション

検索には以下のオプションを指定できますが、残念ながら日本語テキストでは使用できません。（2021 年 2 月現在）

- 語彙の全体のみを検索: “speak” → speak のみヒット; speaker はヒットしない
- 大文字と小文字を区別: “SPEAKER” → speaker はヒットしない
- 検索項目を正規表現として解釈する
 - d - (数字の 1~9): “200d” → 2001, 2002 ... 2009
 - [...] - カッコ内のいずれかの文字: “analy[zs]e” → analyze, analyse
 - (|) - カッコ内のいずれかの組み合わせ:
“M(ay|ey|ai|ei)er” → Mayer, Meyer, Maier and Meier
- 見出し語リストの語を含める: “go” → went, gone も含む



笹生智子- Saso, Tomoko (saso@qdaa.info)

質的データ分析研究会 www.qdaa.info